



ひびき

◆ゆたかなかわりを求めて
夢や希望をもち
未来をひらく子ども

「学校創立 150 周年記念式典」校長あいさつ

校長 渡邊 芳久

(略) この佳き日に、三条市長 滝沢 亮様、三条市議会議員 阿部 銀次郎様、三条市議会総務文教常任委員長 野寄 久雄様、三条市教育長 高橋 誠一郎様をはじめ、多くのご来賓並びに保護者、地域の皆様にご臨席を賜り、(略)

記録によりますと、明治の初め、ここ一ノ木戸地内には、三つの寺子屋があり、それぞれ独自の教育がおこなわれていましたが、大庄屋の小林氏が中心となり、それらを合併して、今の林町に「循誘義塾」という私立学校を創設したそうです。明治5年のことです。そして、翌年には、公立の一ノ木戸校として開学が許可されました。それが明治6年6月14日です。以降、6月14日を創立記念日として、本年150周年の大きな節目を迎えました。大正半ばまで長年校長を務めた初代三上校長から数えて、不肖、私で27代目となる歴史ある学校が、ここ一ノ木戸小学校であります。では、一ノ木戸小学校の母体ともいえる「循誘義塾」の「循誘」とはどのように付けられたのでしょうか？残念ながら元となる記録はありませんが、第13代本多校長の書によりますと、中国の古典「論語」の一節「夫子循循然として善く人を誘う」が出典ではないかと推察されております。およその意味は「孔子先生の教育方法は、教え子が自発的に学習するように順序良く分かりやすく教えてくださる」というようです。以降、一ノ木戸小学校は、今日まで、「循誘」の精神ともいえる、「一人一人の子どもの個性、よさを大切にした教育」と「それを支える教職員研修」に力を注ぎ続けている学校であります。

さて、在校生の皆さん、皆さんが一ノ木戸小学校150歳の誕生日を迎える年に、ここに居ることは奇跡であると言えます。その奇跡的な皆さんに、私の今の夢を伝えます。まず、これから心の中で自分の年齢を思い浮かべてください。今は何歳ですか？次に、その歳に50を足してください。低学年には難しいですね。今、6歳の方は50を足すと56歳。7歳の方は57歳、8歳の方は58歳、12歳の方は62歳になります。その年齢が、一ノ木戸小学校創立200周年の年の皆さんの年齢です。皆さんがその年になる頃、今日の日のこと、そして今年度の一ノ木戸小学校での様々な記念事業などのことを思い出しながら、「一ノ木戸小学校創立200周年をみんなで祝いしよう」と思ってくれること。それが今の私の夢です。この中の一人でも二人でも、50年後、私の夢をかなえてくれたなら最高です。

最後になりましたが、本日、この会場にお集まりのご来賓の皆様、150周年記念実行委員の皆様、ライブ配信を第二中学校体育館でご覧の保護者、地域の皆様、一ノ木戸小学校創立150周年を、盛大にお祝いいただきまして、誠にありがとうございます。150年という長い歴史の中の1ページに確実に刻むことができましたこと、心よりお礼申し上げます。あわせて、これからも末永く、この一ノ木戸小学校の益々の発展のため、ご指導、ご鞭撻を賜り、お力添えくださいますようお願い申し上げます。

結びに、明治初頭から本日までの間、様々な立場で一ノ木戸小学校を支え続けてくださった、多くの先達の皆様々に敬意を表するとともに、感謝の心をお伝えし、挨拶とさせていただきます。